

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	㈱日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙 1F		
所在地	4240886 静岡県清水区草薙1丁目23番16号		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理者が今年の4月末日に交代したのにも関わらず、職員間で大きな戸惑いを見せず利用者様のケアを一つ一つ考え提案し改善しながら今まで進んできました。そんなすた頼もしい職員が集まっている所が草薙です。ホーム1Fは身体介護が比較的多く、2Fは比較的高い自立度の高いフロアです。「草薙」という立地条件もありおしゃれで地域に風通しの良いホームを目指しています。【今年の目標】①チームワークを大切に、情報の共有をしっかりとこなう。②その人らしさを引き出すようにし、利用者様と触れ合いを多くする③利用者様が健やかに過ごして頂けるように「衣・食・住」をサポートする。よろしくお願ひします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2274202395-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年4月に配属された管理者は職員に「当たり前前を当たり前にする」「考えて物事を進めて欲しい」と、外部から講師を呼んで「手浴・足浴講習会」や「看取り勉強会」など定期的に内部研修を行い職員のスキルアップを図っている。6つの委員会を立ち上げ、全職員は何らかの委員になり、「利用者の為」のケアについて考え実践している。事故対策委員会は身体拘束に焦点をあて、全職員が利用者になり「塗れたオムツを当てたまま数時間過ごす、無言で食事介助される、車椅子に長時間座る」等、不快な体験をすることで、課題を見つけ、皆で話し合い共有して良い支援に繋がるような取り組みをしている。管理者は常に利用者、家族、職員、地域の人たちとのコミュニケーションを大事にし、聴いたことのできることは即叶えられるように努め、信頼関係が広がってきている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 10月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念・各フロアの目標は職員で話し合い決めている。	法人の理念・開設当初からの事業所の理念は誰でも見やすい場所に掲示してある。各フロアで今年度の目標を立て、達成に向けて取り組んでいる。開設10年目を迎え理念を見直し作る予定である。	全職員で話し合い、職員が立ち戻り常に拠りどころになるような理念の作成に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月のお花見や秋祭りに参加されたりはしているものの、日常的には交流はありません。	両隣の電気屋・ガソリンスタンドを利用するようにし、近くのスーパーや百円ショップに利用者と一緒に買い物に行っている。支援学校の生徒が職場体験で、短期大学の生徒が歌のボランティアで訪問している。	管理者は地域との交流に力を入れたいと希望している。環境を整え、地域住民と交流し協力関係が築かれる事業所になれるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月に清水支援学校の実習生を受け入れました。認知症のお年寄りとの関わり方や気持ちを伝えさせて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。報告や新しい取り組みをお伝えしている。最近では委員会の再編成やホームの方針についての議論が多い。また、イベント等と組み合わせると体験型の会議を目指している。	年間計画を立て、奇数月に敬老会・防災訓練・祭り等イベントと併せ、家族・利用者・地域包括職員・民生委員が参加できるようにしている。管理者は楽しい会議にしたいと工夫し、参加者から率直な意見を聞いている。家族に月次報告書で知らせている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当者から電話があった時や、書類を提出する際にホーム内での現状を伝えている。コミュニケーションは取れている。	生活保護受給者の受け入れをしていて、生活支援課とは連絡を密に取っている。管理者は行政窓口で各種報告書等を提出の際話をしている。3ヶ月に1度グループホーム連絡協議会で包括職員・他ホームとの交流がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準での対象となる行為は一つもない。しかし、心身の状態を守る為に離床センサーは数台使用している。使用開始時にご家族様・ご利用者様にご提案させて頂き同意と理解を得てから開始している(1F 3名 2F 2名)	事故対策委員会で身体拘束をしないケアをするために、全職員が濡れたオムツをあてたまま車椅子で過ごす等不快な体験をする研修を行っている。「ちょっと待って」と行動を制限することはスピーチロックであるなど拘束の理解と拘束をしないケアに取り組んでいる。	

静岡県(グループホーム草薙 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束体験の内部研修は毎月実施しているが、虐待防止についての勉強会は実施出来ないのが現状である。よって年末あたりに開催し職員の周知を図る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者など、一部の職員は理解しているが、勤続年数が少ない職員は不十分。今後MTなどで勉強会を実施する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安を抱えている利用者様やご家族様の心境を考えて、じっくり時間を掛けてご説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた時や運営推進会議の際に意見・要望を聞くように努めている。すぐに実行出来る事は実施している。	意見・要望を言い易い環境作りが心がけ、利用者の様子を知らせる月次報告書を見ての訪問時等で聞いている。「玄関の周りがさみしい」「ホーム内が雑然としている」等の意見にプランターに花を植え玄関に置く不用品の処分等環境整備を行い意見を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と会話する時間を大切にしている。一人一人の意見を聞きながら、業務の改善・向上に努めている。	日常的に職員は管理者に気付いたことを提案し、聞いたことは即反映するようにしている。小額の物は即購入、2階の手すりが壊れた等高額のものも本社に伝え早めの対応をしている。「全て利用者の為」と6つの委員会を立ち上げ各担当者の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の相談にはいつも気にかけている。それぞれの事情に合わせてつとも、目標を持って頂きやりがいに繋がるように努めている。個別面談は半年に1回実施します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	7月から「看取りについて」「身体拘束体験」「リハビリ体操」「口腔ケアセミナー」「ダスキン清掃(台所・風呂場・トイレ)」等、月に1回以上の内部研修をしてスキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者と交流する機会は会社で開催される研修以外はありません。しかし、近くに同じ系列の事業者が幾つかあるので、職員の交流も兼ねて訪問を企画してもいいと思っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを参考にしながら職員間で話し合い把握をした状態で入居して頂いている。その後はご本人様と積極的にコミュニケーションをとり情報収集に努め少しでも早く生活に慣れて頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いの時間を大切にしながらご家族様の抱えてる不安をお聞きさせて頂いている。また、要望に関しては可能か？可能ではないか？その際にうやむやにせずにお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの状態、ある程度の生活が想像できるのでそれをお伝えした後にご理解と同意を求めている。入所後1か月後のケアプラン原本の説明時に具体的な方向を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝、挨拶から始まり言葉を交わしながら同居している。家族と同じように接している共に生活を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様と連携し普段の様子や体調の変化やご本人の要望など小まめな連絡を続け信頼関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔良く行っていたお店や場所を尋ねたり、ご友人が面会に来られた後に要望があった場合は電話や手紙等で連絡を取り合っている。	入居前の近所の方が毎日訪ねてきて居室で一緒に過ごしている人、以前からの馴染みの蕎麦屋や理・美容院へ継続して通っている人、手紙のやり取り、家族や友人からの電話の取次ぎやかける等、途切れないよう関係継続の支援をしている。	

静岡県(グループホーム草薙 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同テーブルの方同士は比較的すぐに溶け込み会話は出来るのですが、テーブルが離れている利用者様同士は時間が掛かってしまう為、職員が利用者様間の架け橋になるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様が退所された後も、ご家族様・ご本人様との関係を大切にしています。生活していた時の写真を編集して面会に行かれたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の雑談の中から、ご本人様の希望・要望をお聞きしている。中々ご自分の意思を伝える事が難しい方に関してはご家族様にお話をお聞きしている。入浴時や散歩時などリラックスされている時は比較のお話して下さる。	職員は利用者に信頼され何でも言ってもらえるような雰囲気作りの声掛けなどに工夫をし、「買い物に行きたい」「動物園に行きたい」などの要望を聞くことがある。困難な人には家族に聞いたり、何度も繰り返し話しかける中で表情の変化を見て判断するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント情報はもちろんの事、在宅生活でのこだわりや習慣を出来る限り継続して頂いている。施設に入所後も個々の生活を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調の変化が見られる。天気・時間帯・季節によっても異なってくる為、随時観察を続けながら体調管理に努めている。主治医・訪問看護と連携して急変時の対応に備えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度、モニタリング・カンファレンス・プラン見直しをし、半年のアセスメントで課題・問題点を抽出し職員の意見をもとにケアプランを作成している。	本人・家族の意見・要望を聞いて、担当職員を中心に担当者会議で職員の意見をまとめ、達成できる範囲のサービス内容を具体的に記入した介護計画を作成し、家族には面会時や電話にて説明をして確認をもらっている。計画書はケース記録にはさんで全職員で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活は個別に毎日ケース記録に残し、特記事項は申し送り時に使用する日誌に記入し情報の共有に努めている。サービス内容の変更等に関わる情報は職員間の申し送りの時に出る事が多い。ケアマネ・担当職員はモニタリングの際に生かしている。		

静岡県(グループホーム草薙 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの場合、医療的行為に制限があるので、急激な身体レベルの低下や医療行為が必要になった場合は、主治医指示により総合病院の療養型の転院を薦めたり、金銭的な問題により特別養護老人ホームを薦めたり等、その方に最適なサービスを提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に行かれたり地域の老人会イベントに参加されたりしている。また、運営推進会議の際にお互いの情報を伝える事に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれに主治医がいる。入所する前からのかかりつけ医の方もいれば、入所されてから変更された方もいる。定期受診・往診を受け双方に情報の共有している。	入居後協力医に変更し、月2回の往診を受けている人が多いが、以前からの主治医に継続して家族が同行で受診している人もいて双方で結果は聞いている。4月からホームクリニックの協力医は他科診療も有り往診に来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師がお見えになり、利用者様の様子や薬の変更・受診内容をお伝えし指示を受けアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用様が入院された際は、搬送先の医師・看護師と病状等を常に確認し退院前にはカンファレンスをさせて頂き、ホームに戻られた後の生活に支障が少なく済むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体レベルが低下する前から、ご家族様と看取りについてのお話は勿論している。また、新規に入所される方に対しても契約時にご説明し意向をお聞きしている。それらの方向性を考慮し主治医・訪問看護・ホーム・ご家族様で看取りに取り組む姿勢をとっている。	本人・家族はホームで迎えたいとの希望が多い。主治医が看取りに入ったことを家族に告げ主治医・家族・看護師・事業所の4者の協力体制が整えば看取り支援は可能であり、一つ欠けてもできないことを管理者は家族に伝え十分な話し合いをするようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士をお招きしAEDの使用法・心臓マッサージの講習を受けている。日常的に起きる事故に関してはカンファレンス時にや申し送り時に対応策や対処法を伝え実施して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防士をお呼びし、総合防災訓練を実施している(5月11月)。主に地震→火災→避難誘導をしている。水害に関しては立地的に高台という事もあり実施していない。地域の方たちに参加を呼びかけ見学にも来て頂いた。	5月の運営推進会議で家族・地域住民・消防士(5名)が参加する中、「夜間帯に地震による火災発生」を想定し、夜勤者2名が避難誘導まで行う訓練を行った。年2回の訓練は夜間を想定して行っており、消防士に来所してもらい改善点を指摘、指導を受けている。備蓄は水・食料・防寒マット等の用意がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や排泄・入浴時のプライバシーは勿論の事、目上の人に対する礼を守り言葉使い態度に気を付けている。	新人研修やオリエンテーションでプライバシー・職員規定の話はしている。不要な書類等をシュレッダーにかけ処分すること、声掛けの呼び名や聞く姿勢に注意し、常に人としての尊重とプライバシーの確保について適切な対応に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い・要望などを傾聴しお話しやすい雰囲気を出している。買い物・外出の希望があった時はほぼご希望に答えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表現が苦手な方には様子を見て声掛けし外気浴をしているが全員は出来ていない。ただ、レクリエーションに関しては自発的やっ下さる事が多い。調理のお手伝いなども職員の姿を見て台所に来て下さる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員ではないが、その日に着る服は出来る限りご自分で選んで頂いている。お化粧や髪飾りネックレスなども楽しんでいる方もいる。いつまでも、おしゃれや身だしなみを大切にしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から好きなメニューをお聞きして参考にして頂いている。片付け・準備はご利用様と一緒にすることが多い。	利用者が話の中で「麺類が食べたい」など聞くと職員は取り入れたメニューを考え、3食職員が調理し、同じ物を一緒に会話を楽しみながら食べている。美味しそうに見える盛り付けに気を使い、刻みやミキサー食でなく軟らかく誰でも食べられるようにし、声掛けで介助なく一人で食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事は毎食必ず確認し記録に残している。食事が比較的毎食少ない方に対しては栄養補助食品で補って頂いたり、水分に関してはそれぞれの好みに合った物をお出ししたり、夜間帯起きた時の飲んで頂いたり工夫させて頂いている。		

静岡県(グループホーム草薙 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては毎食後実施している。しかし、職員の口腔衛生に対する知識不足が目立つため、来月外部講師をお招きし内部研修を実施する予定。随時咀嚼嚥下に気かけ継続的にスキルアップを目指していく。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに、各利用者様のパターンを把握を毎日している。声掛け・誘導・おむつ交換を利用者様によって分けて実施している。	「安易にオムツにしない」と昼は周りに配慮した声掛けをしてトイレで排泄するようにしている。夜はポータブルトイレ使用や重度で深夜のトイレ介助の困難な人にオムツを使用の人がいる。朝全員牛乳を飲むことで排便の調子は良い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては主治医・訪問看護と相談しながら職員で日々調整している。原因に関しては、運動不足が主な原因と思われるので身体を動かす機会を増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望されるご利用者様を優先に入浴している。基本3日/1回でされる。入浴時はリラックスされるので普段聞かれない会話が聞かれる事が多い。夏場は入浴されない方もシャワーを浴びたりしている。	朝10時から12時の間で個々身体状態によって順番を決め入浴している。時間・同姓介助などの希望はなく、拒否される人も今はいない。見守りだけでゆったり一人で入れる人も多いが、介助なしでは難しい人やシャワー浴で清潔を保っている人の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されていたり体調不良の方以外は、一人一人の生活リズムに合わせている。しかし、食事の時間が決まっている為、殆どの方がだいたい同じ時間に起床されるが、入眠される時間はここに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、殆どの職員は目的は理解しているが、副作用・用量については不十分。服用後の体調の観察や変更の提案については出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所のお手伝いを希望される利用者様が多く、皮むき・野菜切り・炒める・仕分け・食器拭き等をお願いしている。外出を希望される方については時々ドライブに行かれる。		

静岡県(グループホーム草薙 1F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人から要望があった時や、食材の買い出し時以外は外出していない。しかし、ホーム内イベントとして年間計画でドライブ外出を企画する時は交代で外出に行かれる。	近くの公園に散歩に行ける人が天候を見て出かけている。近くのスーパーや百円均一の店、事業所の前の無人の花を買いに行くことがある。中庭のベンチに座って外気浴をしたり、野菜や花の世話をする人もいる。家族と受診帰りに外食などしてることがある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様全員はお金をご自分で所持してはいませんが、事務所にて預り金として個人のお金を管理しており、欲しい物がある時は同行し好きな物を買に行かれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・お手紙等ご家族様やご友人にご連絡される時はご支援させて頂いている。自由なやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感のある飾りやイベント外出時の写真を展示している。職員もご利用者様の生活を不快にする物音や掛け声に配慮しているが、光・色・広さに対しては不十分。	フロア中心の広いオープンキッチンで職員と利用者のできる人が立ち、食事の準備をしている。窓際に程よい高さの畳スペースがあり、腰掛洗濯物をたたんだり、横になって昼寝をすることもできる。全体に季節ごとに飾り物を変え、季節感を感じることができる。管理者は光で気分が変わると蛍光灯から電球に変えるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたい時は部屋に戻られテレビなどを観たり静養したりして過ごして頂いている。気の合ったご利用者様同士会話をしたり歌を唄ったり洗濯物をたたんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具・思い出の写真を飾られる方が多い。居心地よく落ち着ける空間を目指している。ホーム内のレクで作った折り紙等の作品を飾られてる方もいる。	事故対策委員会で居室の検証をし、動線に配慮したベッドや家具の配置、災害時等の危険回避のための固定などの意見が出て実践している。テレビ・ぬいぐるみ・動物カレンダーなど好きなものや使い慣れた家具等を持ちこみその人らしい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事は何でもして頂いている。洗濯物たたみ・戻し・お掃除・調理補助・お茶たし等、それぞれに役割があり日課となって生活している。安全で安心な生活をいつまでも提供できるように目指している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2274202395		
法人名	㈱日本ケアクオリティ		
事業所名	グループホーム草薙 2F		
所在地	4240886 静岡県清水区草薙1丁目23番16号		
自己評価作成日	平成27年9月18日	評価結果市町村受理日	平成27年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

管理者が今年の4月末日に交代したのにも関わらず、職員間で大きな戸惑いを見せず利用者様のケアを一つ一つ考え提案し改善しながら今日まで進んできました。そんなすた頼もしい職員が集まっている所が草薙です。ホーム1Fは身体介護が比較的多く、2Fは比較的自由度の高いフロアです。「草薙」という立地条件もありおしゃれで地域に風通しの良いホームを目指しています。【今年の目標】①利用者様の立場に立ってその気持ちを理解し、して欲しい事を察する。②毎日健康で安心・安全・清潔に暮らせるように職員で情報を共有する。③積極的に会話を増やし外出する機会を増やして個人の居場所を見付けていく。よろしくお願ひします。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kani=true&JigyosoCd=2274202395-00&PrefCd=22&VersionCd=022

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	平成27年 10月22日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念・各フロアーの目標は職員で話し合い決めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月のお花見や秋祭りに参加されたりはしているものの、日常的には交流はありません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月に清水支援学校の実習生を受け入れました。認知症のお年寄りとの関わり方や気持ちを伝えさせて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議を開催している。報告や新しい取り組みをお伝えしている。最近では委員会の再編成やホームの方針についての議論が多い。また、イベント等と組み合わせる体験型の会議を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当者から電話があった時や、書類を提出をする際にホーム内での現状を伝えている。コミュニケーションは取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険指定基準での対象となる行為は一つもない。しかし、心身の状態を守る為に離床センサーは数台使用している。使用開始時にご家族様・ご利用者様にご提案させて頂き同意と理解を得てから開始している(1F 3名 2F 2名)		

静岡県(グループホーム草薙 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束体験の内部研修は毎月実施しているが、虐待防止についての勉強会は実施出来ないのが現状である。よって年末あたりに開催し職員の周知を図る。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や計画作成担当者など、一部の職員は理解しているが、勤続年数が少ない職員は不十分。今後MTなどで勉強会を実施する必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には不安を抱えている利用者様やご家族様の心境を考えて、じっくり時間を掛けてご説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が面会に来られた時や運営推進会議の際に意見・要望を聞くように努めている。すぐに実行出来る事は実施している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と会話する時間を大切にしている。一人一人の意見を聞きながら、業務の改善・向上に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の相談にはいつも気にかけている。それぞれの事情に合わせてつとも、目標を持って頂きやりにい繋がるように努めている。個別面談は半年に1回実施します。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	7月から「看取りについて」「身体拘束体験」「リハビリ体操」「口腔ケアセミナー」「ダスキン清掃(台所・風呂場・トイレ)」等、月に1回以上の内部研修をしてスキルアップを目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、同業者と交流する機会は会社で開催される研修以外はありません。しかし、近くに同じ系列の事業者が幾つかあるので、職員の交流も兼ねて訪問を企画してもいいと思っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前のアセスメントを参考にしながら職員間で話し合い把握をした状態で入居して頂いている。その後はご本人様と積極的にコミュニケーションをとり情報収集に努め少しでも早く生活に慣れて頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の話し合いの時間を大切にしながらご家族様の抱えてる不安をお聞きさせて頂いている。また、要望に関しては可能か？可能ではないか？その際にうやむやにせずにお答えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	インテークの状態、ある程度の生活が想像できるのでそれをお伝えした後にご理解と同意を求めている。入所後1か月後のケアプラン原本の説明時に具体的な方向を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎朝、挨拶から始まり言葉を交わしながら同居している。家族と同じように接している共に生活を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族様と連携し普段の様子や体調の変化やご本人の要望など小まめな連絡を続け信頼関係を築く様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔良く行っていたお店や場所を尋ねたり、ご友人が面会に来られた後に要望があった場合は電話や手紙等で連絡を取り合っている。		

静岡県(グループホーム草薙 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同テーブルの方同士は比較的すぐに溶け込み会話は出来るのですが、テーブルが離れている利用者様同士は時間が掛かってしまう為、職員が利用者様間の架け橋になるように工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご本人様が退所された後も、ご家族様・ご本人様との関係を大切にしています。生活していた時の写真を編集して面会に行かれたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普通の雑談の中から、ご本人様の希望・要望をお聞きしている。中々ご自分の意思を伝える事が難しい方に関してはご家族様にお話をお聞きしている。入浴時や散歩時などリラックスされている時は比較のお話して下さる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント情報はもちろんの事、在宅生活でのこだわりや習慣を出来る限り継続して頂いている。施設に入所後も個々の生活を大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々体調の変化が見られる。天気・時間帯・季節によっても異なってくる為、随時観察を続けながら体調管理に努めている。主治医・訪問看護と連携して急変時の対応に備えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月に一度、モニタリング・カンファレンス・プラン見直しをし、半年のアセスメントで課題・問題点を抽出し職員の意見をもとにケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活は個別に毎日ケース記録に残し、特記事項は申し送り時に使用する日誌に記入し情報の共有に努めている。サービス内容の変更等に関わる情報は職員間の申し送りの時に出る事が多い。ケアマネ・担当職員はモニタリングの際に生かしている。		

静岡県(グループホーム草薙 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームの場合、医療的行為に制限があるので、急激な身体レベルの低下や医療行為が必要になった場合は、主治医指示により総合病院の療養型の転院を薦めたり、金銭的な問題により特別養護老人ホームを薦めたり等、その方に最適なサービスを提案している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公園に散歩に行かれたり地域の老人会イベントに参加されたりしている。また、運営推進会議の際にお互いの情報を伝える事に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれに主治医がいる。入所する前からのかかりつけ医の方もいれば、入所されてから変更された方もいる。定期受診・往診を受け双方に情報の共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護師がお見えになり、利用者様の様子や薬の変更・受診内容をお伝えし指示を受けアドバイスを頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ご利用者が入院された際は、搬送先の医師・看護師と病状等を常に確認し退院前にはカンファレンスをさせて頂き、ホームに戻られた後の生活に支障が少なく済むよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	身体レベルが低下する前から、ご家族様と看取りについてのお話は勿論している。また、新規に入所される方に対しても契約時にご説明し意向をお聞きしている。それらの方向性を考慮し主治医・訪問看護・ホーム・ご家族様で看取りに取り組む姿勢をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命士をお招きしAEDの使用法・心臓マッサージの講習を受けている。日常的に起きる事故に関してはカンファレンス時にや申し送り時に対応策や対処法を伝え実施して頂いている。		

静岡県(グループホーム草薙 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防士をお呼びし、総合防災訓練を実施している(5月11日)。主に地震→火災→避難誘導をしている。水害に関しては立地的に高台という事もあり実施していない。地域の方たちに参加を呼びかけ見学にも来て頂いた。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報や排泄・入浴時のプライバシーは勿論の事、目上の人に対する礼を守り言葉使い態度に気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い・要望などを傾聴しお話ししやすい雰囲気を出している。買い物・外出の希望があった時はほぼご希望に答えている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自己表現が苦手な方には様子を見て声掛けし外気浴をしているが全員は出来ていない。ただ、レクリエーションに関しては自発的やっ下さる事が多い。調理のお手伝いなども職員の姿を見て台所に来て下さる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全員ではないが、その日に着る服は出来る限りご自分で選んで頂いている。お化粧や髪飾りネックレスなども楽しんでいる方もいる。いつまでも、おしゃれや身だしなみを大切にしていきたい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	普段の会話の中から好きなメニューをお聞きして参考にしている。片付け・準備はご利用様と一緒にする事が多い。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事は毎食必ず確認し記録に残している。食事が比較的毎食少ない方に対しては栄養補助食品で補って頂いたり、水分に関してはそれぞれの好みに合った物をお出したり、夜間帯起きた時の飲んで頂いたり工夫させて頂いている。		

静岡県(グループホーム草薙 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアに関しては毎食後実施している。しかし、職員の口腔衛生に対する知識不足が目立つため、来月外部講師をお招きし内部研修を実施する予定。随時咀嚼嚥下に気をつけ継続的にスキルアップを目指していく。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに、各利用者様のパターンを把握を毎日している。声掛け・誘導・おむつ交換を利用者様によって分けて実施している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便コントロールについては主治医・訪問看護と相談しながら職員で日々調整している。原因に関しては、運動不足が主な原因と思われるので身体を動かす機会を増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を希望されるご利用者様を優先に入浴している。基本3日/1回でされる。入浴時はリラックスされるので普段聞かれない会話が聞かれる事が多い。夏場は入浴されない方もシャワーを浴びたりしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	傾眠されていたり体調不良の方以外は、一人一人の生活リズムに合わせている。しかし、食事の時間が決まっている為、殆どの方がだいたい同じ時間に起床されるが、入眠される時間はここに合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関しては、殆どの職員は目的は理解しているが、副作用・用量については不十分。服用後の体調の観察や変更の提案については出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所のお手伝いを希望される利用者様が多く、皮むき・野菜切り・炒める・仕分け・食器拭き等をお願いしている。外出を希望される方については時々ドライブに行かれる。		

静岡県(グループホーム草薙 2F)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人から要望があった時や、食材の買い出し時以外は外出していない。しかし、ホーム内イベントとして年間計画でドライブ外出を企画する時は交代で外出に行かれる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様全員はお金をご自分で所持してはいませんが、事務所にて預り金として個人のお金を管理しており、欲しい物がある時は同行し好きな物を買に行かれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・お手紙等ご家族様やご友人にご連絡される時はご支援させて頂いている。自由なやり取りをされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節感のある飾りやイベント外出時の写真を展示している。職員もご利用者様の生活を不快にする物音や掛け声に配慮しているが、光・色・広さに対しては不十分。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で一人の時間を過ごしたい時は部屋に戻られテレビなどを観たり静養したりして過ごして頂いている。気の合ったご利用者様同士の会話をしたり歌を唄ったり洗濯物をたたんだりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具・思い出の写真を飾られる方が多い。居心地よく落ち着ける空間を目指している。ホーム内のレクで作った折り紙等の作品を飾られる方もいる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自分で出来る事は何でもして頂いている。洗濯物たたみ・戻し・お掃除・調理補助・お茶たし等、それぞれに役割があり日課となって生活している。安全で安心な生活をいつまでも提供できるように目指している。		